

ちほの おしゃべりタイム



世界をつなぐ岐阜愛



オフィスPrima 代表
フリーアナウンサー
ビジネスマナー講師

とおる ちほ
透 千保

東海地方の各放送局(岐阜放送/ぎふチャン、FM GIFU、東海ラジオ、メ〜テレなど)で数多くの番組やニュースを担当。司会、ナレーションの他、名鉄電車、名古屋営地下鉄など、公共交通機関のアナウンス放送に携わる。一方、企業・大学において、ビジネスマナー、電話応対などの研修講師を務め、人材育成に取り組んでいる。

明治時代、多くの日本人が青雲の志を抱いて海を渡りました。そして今も、その志を継いで海外で活躍する人がたくさんいます。さまざまな国で、岐阜県出身の方々が県人会を作り活動しています。

岐阜県人会インターナショナル(GKI)が昨年5月に発足し、その設立総会がオンラインで開催されました。そこには世界17ヶ国(北米、南米、アジア、欧州、オセアニア、日本)から約90人が参加しました。初代会長を務める長屋充良^{ながや みつよし}さんは、関市板取のご出身で、サンパウロ市内でリハビリクリニックを経営されています。長屋さんは日本で柔道整復師、カイロプラクターの資格を取得されましたが、1982年のブラジル出張がきっかけで奥様と出会い家庭を構えることとなりました。一念発起して50歳過ぎてから、現地の大学の理学療法学専攻を卒業された努力家です。ブラジル岐阜県人会の会長も務め、世界に26ある岐阜県人会の交流が長年の夢でした。紆余曲折をへて、その夢がオンラインで叶ったのです。

また、GKI副会長の一人、大野美夏^{おおの みか}さんは、揖斐川町のご出身。1992年、JICAの青年海外協力隊制度でブラジルに派遣され、その後サッカージャーナリストとして活躍されています。大野さんによると、ブラジルは日系人が多い世界一の親日国であり、あたたかく迎え入れられたとか。それは、先人たちの努力の賜物であり、国の成り立ちに貢献したからこそ得られた信頼なのだそうです。

私もお誘いいただき、これまでGKIの定例会に何度か参加させていただきましたが、世界各国に住む岐阜県出身者が一堂に会する瞬間は格別です。国によっては季節も違い、時差の関係で朝・昼・晩と時間も様々。しかしながら、参加者が岐阜の出身という共通点があるだけで話がはずむのです。なつかしい岐阜弁が聞こえてほっとしたという感想もありました。私たちは、いつでもどこにいても、心の拠り所として、故郷や自分のルーツを求めているのかもしれませんが、日系2世、3世の人たちは、日本に行ったことがないのに自分のルーツである岐阜を誇らしく思っているとも聞いて、今岐阜に住んでいる私たちも、さらに故郷の魅力を発信しなければと思いました。

GKIでは「岐阜愛をつなげよう」をテーマに、今秋、様々なイベントを計画中です。10月28日(金)第1回世界岐阜県人会サミット(代表者会議)、29日(土)記念式典がサランカホールで。30日(日)は交流イベントがOKBふれあい会館で開催されます。これまで行われてきた小中高校でのオンラインによる海外出前授業「ギフトセカ」は大変好評で、さらに岐阜の若者を世界に送ろうという青年海外留学支援事業も進めていますが、コロナ禍が終われば、かつてのようなリアルな国際交流も復活するでしょう。今後は、岐阜から世界へ向けてのビジネスを展開するさらなるご縁が生まれることを期待しています。